

## 認知症施策アンケート結果について

## 「認知症に優しいまち SAKAI」に向けたアンケート結果（概要）

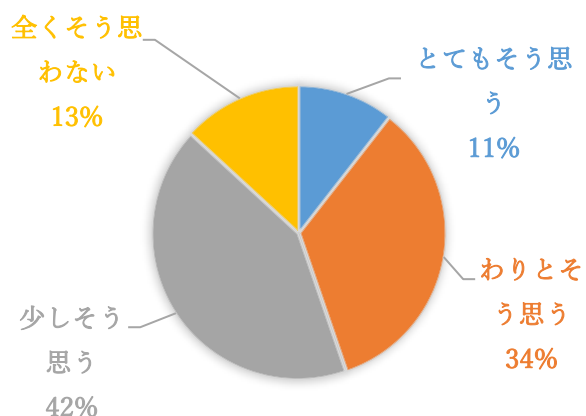
\*実施方法：本人ミーティング・家族会等に参加した本人・家族等へ調査票を配布（無記名での任意回答）

\*実施時期：令和5年9月末～令和5年11月初旬

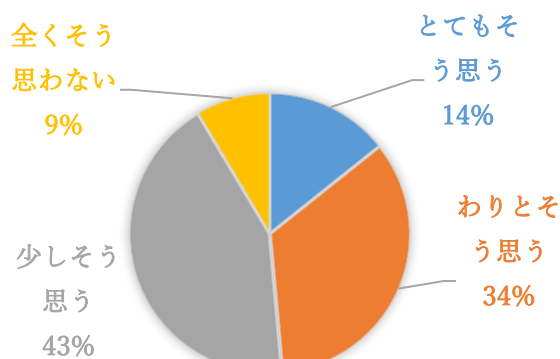
\*回答数：38件

## 認知症に関する普及啓発

周りの人は、認知症を正しく理解している



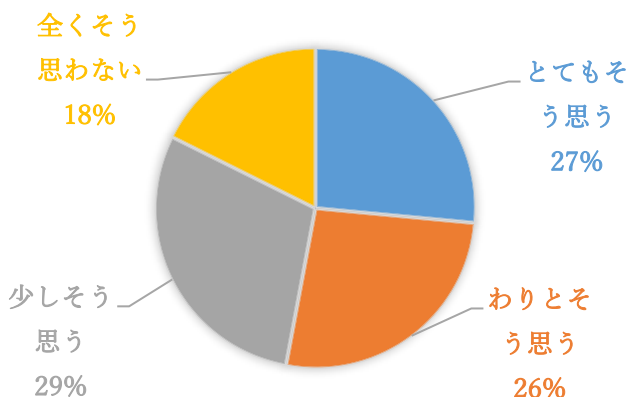
周りの人は、認知症の本人の個性を大切にし、したいことをいつも気にかけてくれる



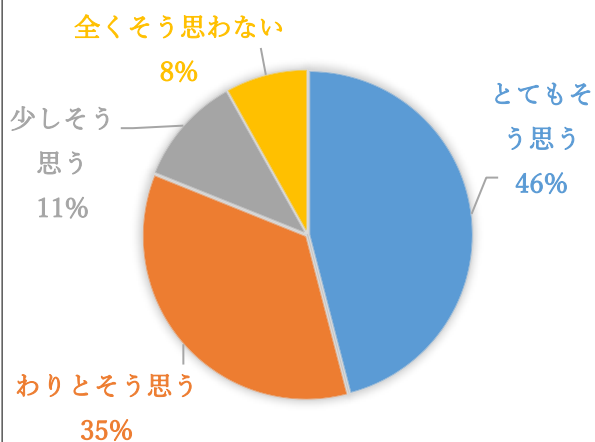
約半数の方が、周りの人たちが認知症について正しく理解し、本人の個性を大切にしてくれていると感じている一方で、残り半数はそうは感じておらず、認知症に対する正しい理解をより一層浸透させることが求められています。

## 認知症の本人・家族等への居場所の提供

認知症の本人・家族等の当事者が相談しあい、語らう場や、その家族同士が学び、話し合う場（本人ミーティング・認知症カフェ・家族のつどい等）がある



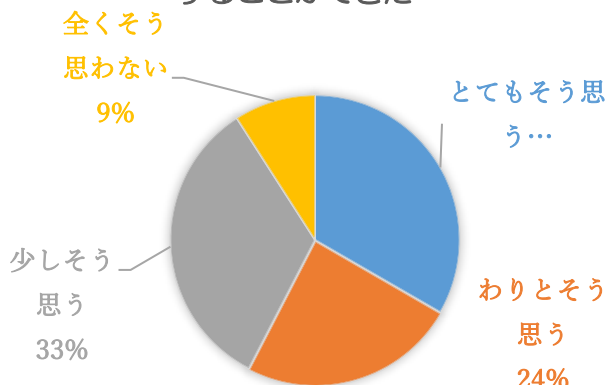
認知症の本人・家族等の当事者が相談しあい、語らう場を増やしてほしい



約半数の方が、当事者が語らう場や家族同士が話し合う場（本人ミーティング・認知症カフェ）があると思っている一方で、8割以上の方がそういう場が増えることを求めています。

### 認知症の早期発見・早期対応

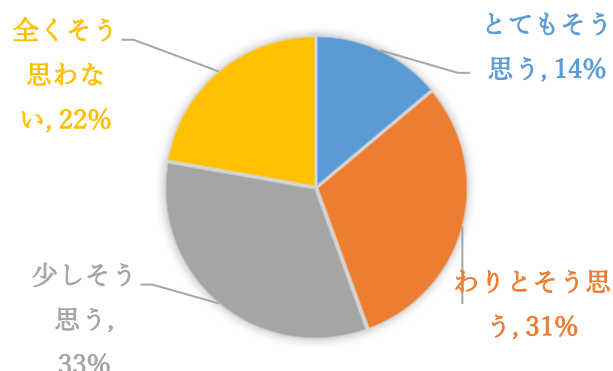
異常を感じて早いうちに診断を受け、認知症などの病気について理解することができた



6割近くの方が、早期診断が病気の理解につながっていると感じています。

### 認知症の本人・家族等への支援

本人が認知症になってからも、活動的に過ごすことができている



本人が認知症になってからも活動的に過ごすことができていると感じている方は、半数を下回っています。

#### ■ アンケート自由記入欄の記載（原文どおり）

- ・年々妻が進行し、介護が難しくなってくる。当然のことですが、こちらは加齢により弱くなります。頑張りますが、少し個別に助言が頂きたいです。
- ・認知機能が落ちてきた時、早く病院へ連れていきたいけどどうすれば良いか、相手に伝えるべきか困ります。
- ・周囲の人の理解：実母、長兄、子供がわかっていない 嫁は理解あり全部やってくれている
- ・当事者の集まりよりは、今までの友人、知人との関係を維持できるようにしたい(腫物にさわる 離れていく)
- ・孤独になる 死にそうなほどの孤独
- ・今までの友人、仕事の関係者の方々などと、交流が難しくなった。みんな遠慮している。気にはかけてくれるけど会うことはない。
- ・仕事もなくなった。結局自宅で TV を見るしかない。車も運転できなくなった。

認知症の方の家族は、当事者への対応などについて悩みをかかえており、個別に相談できる相手を求めていることがわかります。

認知症の当事者の方は孤独を感じており、認知症になってからも周りの方と今までと変わらず交流ができる環境を求めています。

- 認知症に関する誤解や偏見を解消し、認知症の有無に関係なく同じ社会で生きられるよう認知症への理解を深めるため、認知症サポーターや認知症キャラバンメイトの養成を進め、関係機関と連携した活動の場の創出等により、地域で認知症の方やその家族を支える機運の醸成を図ります。【素案 P47(1)参照】
- 認知症を早期に発見し、状況に応じた適切な治療や支援につなげることが、認知症の進行を緩やかにするために重要であるため、認知症の可能性を判定できるチェックリストの利用の周知などを進めます。【素案 P47(2)参照】
- 認知症になってからも安心して日常生活を営むことができるよう、地域において認知症の方とその家族、地域住民等が交流できる居場所の提供を進め、地域全体で高齢者を見守り、支える体制の構築を進めます。【素案 P49(4)参照】
- 認知症に対する正しい知識と理解の浸透を図り、認知症施策を総合的に推進することで、認知症の方を含めたすべての方が個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支えあいながら共生する活力ある社会（＝共生社会）の実現をめざします。【素案 P47 参照】